

記録・情報伝達の必要性
確認テスト

第2回 情報が行動のきっかけになる②

問題1

記録の説明として間違っているものを選びなさい。

- ①書いたものが後々まで残り多くの人に内容を伝えることができる。
- ②口頭での申し送りは相手の記憶に残る行為である。
- ③記録は書くことによって全ての人に伝わる。
- ④介護職員は記録を書く側であり使う側でもある。
- ⑤日々生まれる新たな情報は職種間、職員間で共有する必要がある。

問題2

記録を書く目的を書きなさい。

問題3

記録を書く目的の説明として間違っているものを選びなさい。

- ①交代勤務で携わる職員が変わっても一定のサービスを提供するため。
- ②情報を文字として残すことによって職員間の情報伝達がより確かなものになる。
- ③日々変化する利用者の情報を共有するため。
- ④口頭の伝達はタイムリーに伝えることができるため一番確実な情報ツールである。
- ⑤利用者ごとの職員間の対応方法の差を埋められ個人に合わせた質の高い介護が提供できる。

記録・情報伝達の必要性

確認テスト (解答)

第2回 情報が行動のきっかけになる②

問題1

記録の説明として間違っているものを選びなさい。

- ①書いたものが後々まで残り多くの人に内容を伝えることができる。
- ②口頭での申し送りは相手の記憶に残る行為である。
- ③記録は書くことによって全ての人に伝わる。
- ④介護職員は記録を書く側であり使う側でもある。
- ⑤日々生まれる新たな情報は職種間、職員間で共有する必要がある。

③

記録は書いたからと言って伝わるわけではなく、伝わるように書くという条件が付く。
誰が読んでも内容が理解できるように書かなければいけない。

問題2

記録を書く目的を書きなさい。

- ・日々状態が変化する利用者の情報を共有する
- ・情報を残す
- ・個別介護の継続
- ・利用者、家族とのコミュニケーションの材料
- ・介護が適切に確実にできているかの点検と証明

問題3

記録を書く目的の説明として間違っているものを選びなさい。

- ①交代勤務で携わる職員が変わっても一定のサービスを提供するため。
- ②情報を文字として残すことによって職員間の情報伝達がより確かなものになる。
- ③日々変化する利用者の情報を共有するため。
- ④口頭の伝達はタイムリーに伝えることができるため一番確実な情報ツールである。
- ⑤利用者ごとの職員間の対応方法の差を埋められ個人に合わせた質の高い介護が提供できる。

④

口頭伝達は記憶の中に残す行為であり記憶は時間が経てば失われていくため確実ではない。